

『コラボノート』で、職員間の情報共有を活性化

今日のさまざまな教育課題を解決するため、校務情報化による教育委員会と学校間の連携強化が期待されている。こうした円滑な運用に不可欠なのが、教職員すべてにとって使いやすいツールの導入だ。そこで、学習支援用ソフトウェアで培った優れたユーザビリティでスムーズな情報共有を図る『コラボノート for Public』を導入し、成果を上げている岡山県玉野市教育委員会の事例を紹介する。

教育委員会 事務連絡や通達などの業務を効率化！

■使いやすい連絡掲示板を求めて



▲岡山県玉野市教育委員会 教育総務課 三宅 教士主任

背景は同市出身のマンガ家いしいひさいち氏が描く「ののちゃん」

瀬戸内海の温暖な気候と美しい自然に恵まれた岡山県玉野市では、「たくましく！まなんで、のびるたまのっ子」を教育目標に、豊かな心と確かな学力を身につけ、自分の夢に向かって歩む子どもの育成に取り組んでいる。

こうしたなか、教育委員会が市内小中21校との情報共有ツールとして平成22年3月に導入したのが『コラボノート for Public』だ。

コラボノートは“ノートネット上で共有する”というシンプルな発想から生まれたソフトウェア。ノートや模造紙に書く感覚でネット上に自由に書き込みができ、共同作業が可能のため、教育委員会と各学校を結び、事務連絡や通達などの業務を効率化できると採用する自治体

が増えている。

教育総務課の三宅主任は、「グループウェアの更新にあたっては従来の課題を解決するとともに、掲示板機能を強化したいというねらいがありました。その点、コラボノートならブラウザを立ちあげるだけで使えるので、パソコン操作が苦手な教職員でも安心。情報の発信から閲覧、確認までを一括りに行える連絡掲示板として期待しました」と導入意図を語る。

その上で、「当初は主に教育委員会から学校への情報発信として利用していましたが、今では事務職員や養護教諭、管理職間といった横の情報共有にも活用が広がっています」と手応えを実感していることを挙げた。

■問い合わせ対応の時間を削減

では、情報共有を円滑にすることで、教育委員会の業務のどこが効率化するのか。三宅主任が真っ先に口にしていたのが、同じ内容の問い合わせに対応したり、電話をかけ直したりといった時間を削減できることだ。「これまでは各学校から寄せられた質問が似通っていても、その都度答えることしかできませんでした。しかし、コラボノートなら“こうしてくだ

さい」と答えたことを『ふせん』で貼り付けておけるので、同時かつ全員に伝えることができます」

また、使い慣れた紙書類をスキャンして簡単にテンプレート化できる機能があり、これまで紙で行っていた業務をすぐにコラボノートに移行できるのも魅力だという。実際、申請書などをまとめた「様式集」をファイル化したところ、電話での問い合わせがほとんどなくなったと振り返る。

コラボノートでは、このような書類づくりもテキスト枠を定義する操作だけで設定できるため、依頼文書の作成や各学校での記入が簡単になり、FAXやメール添付の必要がなくなるのがメリットだ。しかも、新しい更新情報が掲示された際は画面上の「UP」マークで知らせてくれるので、見落としが少なくなるという



▲書類の様式を一覧でファイル化。問い合わせの手間を削減した。

事務職員、養護教諭、管理職間に広がる活用



▶学校との距離を縮める工夫として、教育委員会の座席表を写真入りで紹介。

効果もある。

さらに、「誰に見せる」「誰と書く」などノートの公開範囲や書き込み権限を設定できるのもコラボノートの優れた機能の1つだ。「伝えたい職域ごとや用途によって使い分けが簡単にできるので便利です。また、誰でも見られる設定の利用の仕方としては、教育委員会の座席表を顔写真入りで紹介。“身近に感じるようになった”と教職員から好評でした」と三宅主任。

■アンケートも一括集約

もう1つ、教育委員会として課題になっていたのは、調査やアンケートなどで各学校から送られてくる書類の集約に時間を要すること。ここでもコラボノートの返信依頼機能を使えば、学校側は受け取った資料をパソコン上でデータを入力して返信するだけ。また、返信状況をいつでも一覧表で確認することができるほ

か、返信された文書の記入内容をまとめてCSVファイルに出力できるので、手作業で集計するという手間もなくなる。

教育総務課ということから、物品の購入希望調査などに利用しているという三宅主任も、「未確認、作業中、提出済みといった学校の状況が分かり、添付ファイルも一括でダウンロードできるので助かります。以前は回答が送られてこない学校には一校ずつ電話で催促していましたから」と満足する。

現在、多くの教育委員会では、子どもを取り巻く環境の変化やカリキュラムの多様化などにより、こうした調査の機会が増えている。アンケートの手順から回収、集計までをスピーディーに処理できれば、そのぶん余裕を持って分析に取り組める。この機能がきっと大きな力になるはずだ。

■可能性が広がるツールとして期待

一方、コラボノートは教育委員会の手を離れて、事務職員間や養護教諭間などの活用に広がっているが、最も役立っているのは定例会などのスケジュール調整だという。

「なぜなら、以前は代表者が各校にFAXを送って都合の悪い日を書き入れて返信、それをまた調整するといった作業を繰り返していましたが、コラボノート

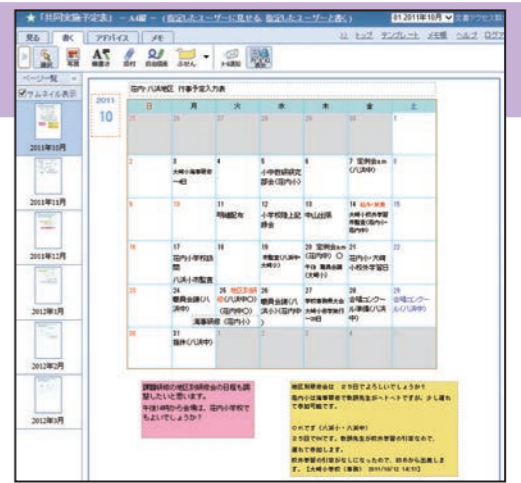
ではノート上に作成したカレンダーにそれぞれが都合を書き込めば全体の都合が分かるため、譲り合いによる調整がスムーズに行われるようになったからです」と三宅主任。つまり、お互いの都合が見えることで、ちょっとした調整をつけやすくなったのだ。

また、使い始めるのが速かったという養護教諭の活用では、インフルエンザなどの感染情報を各学校で書き込むようにしたことで、リアルタイムな状況がひと目で分かるようになったこと。あるいは、図書館司書間では在庫がない書籍の問い合わせに活用するなど、いずれも学校間の横のつながりを埋めるツールとして役立っていることを指摘してくれた。

こうした活用を見守る三宅主任は、「自分たちの考えで自由に使ってくれているところがいい。使っていけば可能性が広がるツールなので、教育委員会としても、そのための問い合わせはどんどん受け入れていきたい」と期待する。

その上で、この流れを一般の先生方に広げていくことが使命であるとし、「教材や指導案をアップしてお互いに共有したり、評価したりするようになれば面白いと思います。たとえば、この単元に良い教材がないかなと思ったときにコラボノートを見てみようと思えるようになれば、もっと利用価値が高まるのでは」と抱負を語った。

▶同じカレンダーを見ながらスケジュールを確認できる更新情報は「ふせん」で確認できる



コミュニケーション創造企業
株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア

●商品の情報はホームページでもご覧いただけます。
<http://www.collabonote.com/edu/>

本社 香川県高松市浜ノ町8番24号 TEL(087)821-4520 フリーコール 0120-999-687 (固定電話専用)